

A会場 (519 教室) 第一日目 6 月 8 日 (土)

- 9:30- 9:55 A01 新本万里子 (広島大学大学院総合科学研究科)
生理用品の受容によるケガレ観の変容—パプアニューギニア・アベラム社会の事例から
- 10:00-10:25 A02 大戸朋子 (北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST))
同一嗜好の女子コミュニティにおける匿名性と実名性
- 10:30-10:55 A03 古賀万由里 (立正大学)
インド舞踊界におけるマスキュリニティの変遷
- 11:00-11:25 A04 日野智豪 (早稲田大学人間科学学術院)
タイ北部農村社会で HIV/AIDS 感染者女性を生きる—ジェンダー的視点からの再検討
- 11:30-11:55 A05 熊田陽子 (お茶の水女子大学)
女性の生に見る都市のあり方—ある性労働者 A の視点から
- 12:00-12:25 A06 田中雅一 (京都大学)
セックスワーカーにとっての客と恋人—日本人女性セックスワーカーへのインタビュー事例から
-
- 13:30-13:55 A07 工藤正子 (京都女子大学)
国境を越える「家族」の再編—パキスタン人男性と結婚した日本人女性の家庭内役割の変容を中心に
- 14:00-14:25 A08 伊藤雅俊 (日本大学)
オランジャパンの語る日系インドネシア人—日系アイデンティティに関する一考察
- 14:30-14:55 A09 石田智恵 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)
アルゼンチンにおける「移民」の社会問題化とその周縁—日本人移民の子孫が見た人種主義
- 15:00-15:25 A10 佐藤量 (立命館大学)
1950 年代中国の近代化と同窓会ネットワーク—日本人学校出身中国人による生存戦略
- 15:30-15:55 A11 モリカイネイ (立命館大学)
「華人系プロテスタント教会」のネットワークの形成—「短期宣教」を中心とするトランスナショナルな宗教実践について
- 16:00-16:25 A12 櫻田涼子 (京都大学)
読み替えられる儀礼—盂蘭勝会から立ち上がる華人公共圏
- 16:30-16:55 A13 渡邊暁子 (東洋大学)・細田尚美 (香川大学)
湾岸アラブ諸国で改宗すること—フィリピン移住労働者にみる親密圏の変容と新たな力関係への包摂
- 17:00-17:25 A14 小池郁子 (京都大学人文科学研究所)
宗教的家族組織の形成からみるオリシャ崇拝運動—アフリカ系アメリカ人の地域社会と家族

B会場 (517教室) 第一日目 6月8日 (土)

- 10:00-10:25 B01 岩間春芽 (大手前大学)
グローバルな想像の産物としての「貧しいネパール北西部」像とその影響—アパデュライのメディアスケープ論の応用から
- 10:30-10:55 B02 岡野英之 (日本学術振興会/大阪大学大学院国際公共政策研究科)
交錯する人脈、組み上げられる武装勢力—シエラレオネ内戦にみるカマジョーの変容
- 11:00-11:25 B03 酒井朋子 (東北学院大学)
和平への葛藤—移行期北アイルランド社会における長期紛争経験の語り
- 11:30-11:55 B04 中生勝美 (桜美林大学)
台湾南部の津波とセーフティネット構築—蘭嶼島の核廃棄物貯蔵場と津波・放射線ホットスポットの報告
- 12:00-12:25 B05 太田好信 (九州大学大学院)
批判性を回復する—冷戦構造期における文化の理論化とその場所性の消失
-
- 13:30-13:55 B06 別所裕介 (広島大学)
持続可能性の存在論—黄河源流域の民間環境保全組織「コルユグ・ツォクパ」を事例として
- 14:00-14:25 B07 高塔娜 (早稲田大学文学研究科)
多元的医療体系への考察—現在モンゴル医療の位置づけに関して
- 14:30-14:55 B08 達古拉致 (奈良女子大学人間文化研究科博士後期課程比較文化学専攻)
モンゴル人の伝統的オボー祭祀における土地所有観念
- 15:00-15:25 B09 佐々木伸一 (京都外国語大学)
中国漢族シャーマンの職能者に関する概括
- 15:30-15:55 B10 兼重努 (滋賀医科大学)
社会主義国家中国における民間芸能の変容—少数民族トン族の事例から
- 16:00-16:25 B11 堀江未央 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
へパとポイする女たち—雲南省ラフ族における女性の省外婚出と「乱れ」の語り
- 16:30-16:55 B12 今井彬暁 (総合研究大学院大学)
民族間分業と労働表象—ベトナムの観光地におけるモン族の立ち位置
- 17:00-17:25 B13 吉野晃 (東京学藝大学)
女性シャーマンと歌—タイ北部、ユーミエン (ヤオ) 社会における新たな宗教現象に関する中間報告

C会場(528教室) 第一日目 6月8日(土)

- 9:30- 9:55 C01 藤井真一(大阪大学大学院人間科学研究科)
紛争後の社会を再構築する—ソロモン諸島真実和解委員会の活動を事例として
- 10:00-10:25 C02 四條真也(首都大学東京大学院)
血か否か—ハワイにおける養子縁組ハーナイを事例に
- 10:30-10:55 C03 小林誠(日本学術振興会/お茶の水女子大学)
不確実な伝統に対処する方法—ツバル・ナヌメア環礁における首長制をめぐる「真実」とその「証明」
- 11:00-11:25 C04 秦玲子(京都大学大学院 日本学術振興会特別研究員 DC)
ニュージーランド・マオリのタトゥー、モコの復興—人々はなぜ、もう一度モコを刻んだのか
- 11:30-11:55 C05 前田建一郎(洗足学園音楽大学)
証拠としての人類的資料と、ワイタンギ審判所—ニュージーランド、チャタム諸島における慣習漁業権をめぐる裁判記録を手がかりに
- 12:00-12:25 C06 神山歩未(名古屋大学大学院文学研究科)
マオリの環境保護とマオリ・ポリティクス—口頭伝承タニファをめぐる
-
- 13:30-13:55 C07 森田剛光(名古屋大学大学院文学研究科)
民族誌研究のグローバリゼーション—ネパール、タカリーの事例
- 14:00-14:25 C08 土井清美(東京大学大学院総合文化研究科)
衝突としての対面状況とフィールドワークの可能性—カミーノ・デ・サンティアゴにおける徒歩実践を事例に
- 14:30-14:55 C09 熊谷圭知(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科)
場所の生成とフィールドワーク—エスノグラフィーにおける空間/場所論の再定位のために
- 15:00-15:25 C10 中川敏(大阪大学人間科学研究科)
ダンゴムシに怒りを感じるとき—他者のエージェンシー
- 15:30-15:55 C11 楊小平(広島大学大学院国際協力研究科)
展示を通じた原爆体験の継承に関する文化人類学的研究—広島平和記念資料館におけるモノと人の関係性をめぐって
- 16:00-16:25 C12 康陽球(京都大学大学院人間・環境学研究科)
「異文化」結婚における差異の意識と「民族的」実践—在日コリアン男性—日本人女性夫婦の事例から
- 16:30-16:55 C13 菅沼文乃(南山大学)
独居老年者はいかにして社会関係を構築するのか/しえないのか—沖縄県都市部低賃貸アパート居住老年者の事例から
- 17:00-17:25 C14 小西信義(北海道大学大学院文学研究科)
負い目の解消を巡る互惠性—北海道、豪雪過疎地域における除排雪活動に関する人類学的研究

D会場 (527 教室) 第一日目 6 月 8 日 (土)

- 10:00-10:25 D01 石川俊介 (名古屋大学大学院文学研究科)
祭りの「当事者」としてのローカルメディア—長野県諏訪のケーブルテレビ局
を事例として
- 10:30-10:55 D02 織田竜也 (長野県短期大学)
2.5 次元の界面—ゲーム・コスプレ・聖地巡礼
- 11:00-11:25 D03 田中正隆 (高千穂大学)
デモクラシーに不満を叫ぶ—ベナンのメディアと視聴者参加番組について
- 11:30-11:55 D04 松岡陽子 (名古屋大学)
変動するシングルマザーの社会的地位—ケニア・エンブ社会を事例として
- 12:00-12:25 D05 湖中真哉 (静岡県立大学国際関係学部)
貧困の物質文化—東アフリカ牧畜社会における国内避難民の事例

-
- 13:30-13:55 D06 井上航 (京都市立芸術大学大学院音楽研究科)
撮る身体としての「私」から「私たち」を感じる—葬式で遺体と泣きと
踊りを撮影する経験から
- 14:00-14:25 D07 分藤大翼 (信州大学全学教育機構)
カメルーンの先住民運動に関する応用映像人類学的研究—先住民組織におけ
る参加型映像制作の実践

- 14:30-17:25 分科会 PDa 代表者: 村尾静二 (総合研究大学院大学)
映像の共有人類学—映像をわかちあうための方法と理論

PDa0 趣旨説明

PDa1 村尾静二 (総合研究大学院大学)

映画を撮ること・観ること・共有すること—ロバート・フラハティの映画と「共
有」の課題

PDa2 宮坂敬造 (慶應義塾大学)

ベイトソン、ミードの映像による文化研究の今日的意義—〈映像の共有〉の多
元的複層的諸相の分析から

PDa3 南出和余 (桃山学院大学)

「子ども」と映像—記憶と変化の撮影

PDa4 箭内匡 (東京大学大学院総合文化研究科)

ジャン・ルーシュにおける共有人類学—その概念、実践、振幅、可能性

PDa5 大森康宏 (立命館大学)

撮影技術から見たジャン・ルーシュとの共有関係

コメンテータ: 湖中真哉 (静岡県立大学)

E会場 (526 教室) 第一日目 6 月 8 日 (土)

- 10:00-12:25 分科会 PEa 代表者: 浮ヶ谷幸代 (相模女子大学)
サファリングとケア、その創造性
- PEa0 趣旨説明
- PEa1 浮ヶ谷幸代 (相模女子大学)
サファリングとケアの継承性—日本における精神の病いをめぐるピアサポートの実践から
- PEa2 相澤出 (医療法人社団爽秋会)
在宅緩和ケアにおける看取りとサファリングの諸相—宮城・福島県における在宅緩和ケア遺族調査をもとに
- PEa3 鈴木勝己 (早稲田大学人間科学学術院)
タイのエイズホスピス寺院におけるサファリングとケア
- PEa4 近藤英俊 (関西外国語大学)
苦境における不確実性、偶然性、必然性
- コメンテータ: 星野晋 (山口大学)、飯田淳子 (川崎医療大学)
-
- 13:30-16:25 分科会 PEb 代表者: 市野澤潤平 (宮城学院女子大学)
自己と〈異物〉の見えない関係—身体と外部との「境界」をめぐる不確実性
- PEb0 趣旨説明
- PEb1 碓陽子 (金沢星稜大学)
「肥満」と機械的身体—減量がはらむ不確実性を事例に
- PEb2 新ヶ江章友 (名古屋市立大学)
「沈黙する他者=HIV」と身体との対話—抗 HIV 療法の副作用としてのうつ病との関係から
- PEb3 磯野真穂 (早稲田大学)
エビデンスからこぼれ落ちる不確実な「個」の身体—循環器疾患の診察現場におけるフィールドワークを通じて
- PEb4 牛山美穂 (早稲田大学)
治療ガイドラインに抗する不確実な身体—アトピー性皮膚炎患者の事例から
- PEb5 市野澤潤平 (宮城学院女子大学)
〈浸潤〉される身体をめぐる不確実性と累積的リスク—観光ダイビングの経験における減圧症の問題
- コメンテータ: 梅田夕奈 (山口大学医学部)・モハーチ・ゲルゲイ (大阪大学未来戦略機構)
- 16:30-16:55 E01 山口宏美 (北陸先端科学技術大学院大学)
医療者の省察と多職種協働をつなぐ試み—心臓リハビリテーションの事例から
- 17:00-17:25 E02 鈴木和歌奈 (大阪大学, 日本学術振興会)
網膜再生プロジェクトにおける「抵抗と適応」

F会場(522教室) 第一日目 6月8日(土)

10:00-12:25 分科会 PFa 代表者:岩佐光広(高知大学)

応答/態度の人類学—現場のアクチュアリティへの民族誌的接近に向けて

PFa0 趣旨説明

PFa1 伊藤まり子(国立民族学博物館)

はぐらかす応答、再編される道徳性—ベトナム北部地域の宗教コミュニティにおける「逸脱した」態度をめぐって

PFa2 工藤由美(亀田医療大学)

盛り上がらなかったフィエスタ—マプーチェ先住民組織の議論の過程にみる態度の多面性と重層性

PFa3 小川さやか(国立民族学博物館)

噂・ゴシップを通じた「ストリートの政治」—タンザニア路上商人組合の展開を事例に

PFa4 岩佐光広(高知大学)

悲しんでも悲しみすぎてはならない—ラオス低地農村部の看取りの現場における感情的応答と態度のせめぎあい

コメンテーター:佐川徹(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

13:30-13:55 F01 藤原潤子(総合地球環境学研究所)

ロシア・サハ共和国における交通事情と気候変化—「到達困難僻地」への影響から

14:00-14:25 F02 大石侑香(首都大学東京大学院)

小規模トナカイ飼育のテリトリー—西シベリア、タイガ地帯の森林ネネツとハンティの環境利用と隣人関係

14:30-14:55 F03 岸上伸啓(国立民族学博物館)

米国アラスカ州バロー村における捕鯨者による鯨肉の分配について

15:00-15:25 F04 山越英嗣(早稲田大学大学院人間科学研究科)

ストリートアートを用いた「対話」と「交渉」—メキシコ南部オアハカ州における集団Aの実践を事例として

15:30-15:55 F05 二宮健一(神戸大学大学院)

ペンテコスタリズムとリバイバリズム—ジャマイカにおける宗教習合のサウンド・スケープ

16:00-16:25 F06 川本直美(京都大学大学院人間・環境学研究科)

現代メキシコ村落における祭礼の人類学的研究—ニーニョ・ディオスのカルゴ・システムを事例に

16:30-16:55 F07 村川淳(京都大学大学院農学研究科)

近代国家の制度拡充とアンデス先住民の「共同体」—ティティカカ湖「ロス・ウロス」社会における身分証明書の普及をめぐって

17:00-17:25 F08 池田光穂(大阪大学)

先住民のアイデンティティについて考える—グアテマラ西部のマヤ系先住民の事例

G会場(532教室) 第一日目 6月8日(土)

- 10:00-10:25 G01 児玉香菜子(千葉大学文学部)
「過放牧」論の解体—中国内モンゴル定住牧畜民の干ばつ対策から
- 10:30-10:55 G02 ウリヤンハイ・ナチンションホル(岡山大学大学院環境生命科学研究科)・
額爾徳尼(東京大学大学院農学生命科学研究科)・ルブサンドルジ・ジャルガルサ
イハン(モンゴル国立科学アカデミー植物研究所)・藤田昇(総合地球環境学研究
所)・山村則男(同志社大学文化情報学部文化情報学科)・小長谷有紀(国立民族学
博物館)・吉川賢(岡山大学)
季節移動、日帰り放牧と気候及び草原生産力の関係—モンゴル国での調査事例
- 11:00-11:25 G03 ナ・ラン(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
牧畜の定住化過程及び草原劣化—内モンゴルのジャロード旗北部を事例にし
て
- 11:30-11:55 G04 尾崎孝宏(鹿児島大学法文学部)
ポスト社会主義概念の有効性の検討—モンゴル国遠隔地草原地域の牧畜モデ
ルを例に
- 12:00-12:25 G05 上村明(東京外国語大学)
モンゴル国の牧畜におけるコモンズ—「牧民グループ」は、なぜ消えていくか?
-
- 13:30-16:25 分科会 PGa 代表者:高倉浩樹(東北大学東北アジア研究センター)
東日本大震災に対する人類学者の社会関与とその可能性—2011-12年度宮城県
震災無形民俗文化財調査事業より
- PGa0 趣旨説明
- PGa1 政岡伸洋(東北学院大学)
復興の名の下で何が起こっているのか—宮城県本吉郡南三陸町戸倉波伝谷の
場合
- PGa2 兼城糸絵(東北大学大学院)
震災復興とアニメ聖地巡礼者たち—宮城県七ヶ浜町花湊浜を例として
- PGa3 岡田浩樹(神戸大学)
民俗芸能復活と震災復興のパラドクス—宮城県東松島町大曲浜獅子舞の「伝
統」と近代性
- PGa4 滝澤克彦(東北大学)
震災後の社会空間再編過程における祭礼の意味について
- PGa5 高倉浩樹(東北大学東北アジア研究センター)
震災サルベージ人類学の可能性とその体制構築にむけて
- 16:30-16:55 G06 内藤直樹(徳島大学)
日本の地方大学における「災害の地元学」にむけて—徳島沿岸部における南海
トラフ地震予測の影響
- 17:00-17:25 G07 山口睦(東北大学)
慰問袋の福祉的利用についての一考察—災害における新聞の役割に着目して

H会場 (533 教室) 第一日目 6 月 8 日 (土)

- 10:00-10:25 H01 水谷裕佳 (上智大学)
米国の都市部における先住民教育—アリゾナ州、カリフォルニア州、ニューメキシコ州の事例を中心として
- 10:30-10:55 H02 佐久間香子 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
サラワク先住民社会における先住民運動の影響—ブラワンとプナンの民族間関係からの考察
- 11:00-11:25 H03 関口由彦 (成城大学民俗学研究所)
アイヌ文化伝承活動における「伝統」、「現代」、「日常」—移ろい動くものへのまなざし
- 11:30-11:55 H04 山崎幸治 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター)
映像をもちいた現代アイヌ文化展示の試み—「アイヌと境界」展を事例として
- 12:00-12:25 H05 吉本裕子 (横浜市立大学大学院都市社会文化研究科)
地域博物館における生活世界からの緩やかな協同 (共同) —北海道二風谷在住の工芸家の語りを事例として
-
- 13:30-13:55 H06 梶丸岳 (日本学術振興会)
歌がつむぐ社会?—秋田県金沢八幡宮「掛唄」の歌い手間における社会関係
- 14:00-14:25 H07 中谷和人 (京都大学)
芸術のエコロジーへむけて—知的障害者の絵画制作活動にみる技能・動機づけ・自己
- 14:30-14:55 H08 宮崎聖子 (福岡女子大学)
日本植民地期台湾の漢族系住民と「母性」—「保育」との関連で
- 15:00-17:25 分科会 PHa 代表者: 上水流久彦 (県立広島大学)
日本認識の形成からみた植民地支配、戦争の記憶—台湾、韓国、パラオ、中国から
- PHa0 趣旨説明
- PHa1 宮岡真央子 (福岡大学)
呉鳳をめぐる信仰・政治・記憶 —植民地の遺物の暴力性が発揮される状況に関する一考察
- PHa2 飯高伸五 (高知県立大学)
太平洋戦争の記憶のヘゲモニーへの抵抗と日本認識 —パラオ諸島アンガウル島の事例から
- PHa3 中村八重 (韓国外国語大学校)
「近代文化遺産」の保存か破壊か —ソウル市庁舎の建て替えをめぐる
- PHa4 川口幸大 (東北大学)
中国村落における烈士記念碑と族譜に表される「日本」
- コメンテータ: 芹澤知広 (奈良大学)・玉城毅 (奈良県立大学)

I 会場 (513 教室) 第一日目 6月8日 (土)

9:30-12:25 分科会 PIa 代表者:長沼さやか(日本学術振興会)

東アジア・東南アジアにおける漁村形成の比較研究

PIa0 趣旨説明

PIa1 玉城毅(奈良県立大学)

流動状況からの秩序形成—沖縄・糸満漁民による漁村形成過程

PIa2 鈴木佑記(日本学術振興会)

家船から家屋へ—海民モーケンの移動と定住の歴史

PIa3 宇田川飛鳥(慶應義塾大学)

分断される漁村と漁場—韓国の干拓による海洋変化と漁村の変貌

PIa4 西村一之(日本女子大学)

漁民になる—台湾東部漁業地への移動と移住

PIa5 長沼さやか(日本学術振興会)

漁民の移動と定住—珠江デルタの水上居民からの考察

コメンテータ:長津一史(東洋大学)

13:30-13:55 I01 藤井紘司(早稲田大学大学院人間科学研究科)

高い島と低い島との往来をめぐる生態史—琉球弧・八重山諸島における水平統御の海域人類学研究に向けて

14:00-14:25 I02 矢倉広菜(名古屋大学大学院文学研究科)

野生動物を殺すことになった人々—愛知県山間地域の獣害問題から

14:30-14:55 I03 大野あきこ(大阪経済法科大学)

「家畜殺し」の現代的展開—2010年宮崎県・口蹄疫体験と「子取り」農家をめぐり—考察

15:00-17:25 分科会 PIb 代表者:奥野克巳(桜美林大学)

動物殺しの論理と倫理—種間/種内の検討

PIb0 趣旨説明

PIb1 島田将喜(帝京科学大学)

動物が動物を「無駄に」殺すことはあるか?

PIb2 シンジルト(熊本大学)

屠畜の新規範—中国西部における「人と動物」と「人と人」

PIb3 山口未花子(東北大学)

北米狩猟民カスカと動物との殺し殺される関係

PIb4 大石高典(京都大学アフリカ地域研究資料センター)

「殺す/殺さぬ」の位相—カメルーン東南部熱帯林における動物殺しを事例に

コメンテータ:池谷和信(国立民族学博物館)

A会場(519教室) 第二日目 6月9日(日)

- 9:30- 9:55 A15 飛内悠子(上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科)
祈りと呪いの間?—南スーダン—ウガンダ国境地帯におけるキリスト教徒の
行為と言説
- 10:00-10:25 A16 田原範子(四天王寺大学)
ミエル・アグワラ儀礼の歌についての社会学的考察—西ナイル・アルル人の生
活世界
- 10:30-10:55 A17 岡部真由美(日本学術振興会/国立民族学博物館)
タイにおける開発言説と宗教実践との相関関係—仏教僧によるカリスマ性の
追求に焦点をあてて
- 11:00-11:25 A18 川田牧人(中京大学)
シンセイなる擬いもの—生産・流通・消費の諸活動からみたフィリピン・ピサ
ヤ地方の聖像祭祀
- 11:30-11:55 A19 関恒樹(広島大学)
スラムの貧困統治にみる包摂と非包摂—フィリピンにおける条件付現金給付
の事例から
-
- 12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501教室)
- 15:00-15:25 A20 張玉玲(山口県立大学)
中華街の観光振興と「中国文化」の資源化—「地域文化」の再構成の視点から
- 15:30-15:55 A21 浅川泰宏(埼玉県立大学)
地域表象としての「遍路文化」—巡礼の観光資源化をめぐる
- 16:00-16:25 A22 タン・カフン(台湾大学人類学科)
外部集団による都市祭礼の変容—浅草の三社祭を事例として
- 16:30-16:55 A23 矢島妙子(明治大学法と社会科学研究所)
地域文化の体現と展開—ローカルヒーローにみる地域性の態様
- 17:00-17:25 A24 関一敏(九州大学大学院人間環境学研究院)
幸福論—福岡市のマチバをフィールドとして

B会場 (517 教室) 第二日目 6 月 9 日 (日)

- 9:30- 9:55 B14 増野高司 (国立民族学博物館・外来研究員)
タイ北部のミエン族山村における「伝統的」農業技術の衰退
- 10:00-10:25 B15 武田龍樹 (京都大学大学院人間・環境学研究科)
ポル・ポト時代の経験と語りーカンボジア西部村落部の事例から
- 10:30-10:55 B16 野澤豊一 (金沢大学)
身体をシンクロさせ、感情を共有するー米国黒人教会における参加型音楽の実践では、サウンドはいかに機能するのか?
- 11:00-11:25 B17 中川加奈子 (関西学院大学先端社会研究所)
供物から商品へーネパールにおける供犠獣の肉をめぐる社会関係
- 11:30-11:55 B18 宗野ふもと (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
手織り物はどうな財産かーウズベキスタン、カシュカダリヤ州北西部における地域間の流通に着目して

12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501 教室)

- 15:00-15:25 B19 近藤宏 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)
誘惑と偶然ーパナマ東部先住民エンベラに見る動物との関係性の様式
- 15:30-15:55 B20 佐野文哉 (京都大学大学院人間・環境学研究科)
境界の紡ぐ関係性ー手話サークルにおける調査から
- 16:00-16:25 B21 小林正史 (北陸学院大学)
伝統的炊飯方法のバリエーションを生み出した要因ー加熱時間と米・水量の計量データをもとにして
- 16:30-16:55 B22 角南聡一郎 (財団法人元興寺文化財研究所)
台湾原住民族の寝る空間と寝具ー日本植民地時代の調査研究を題材として

C会場(528教室) 第二日目 6月9日(日)

- 9:30-11:55 分科会 PCa 代表者:大村敬一(大阪大学)
宇宙人類学の挑戦—「宇宙」というフロンティアにおける人類学の可能性
- PCa0 趣旨説明
- PCa1 木村大治(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
ファースト・コンタクトの人類学
- PCa2 佐藤知久(京都文教大学)
宇宙空間での生は人類に何を教えるか
- PCa3 大村敬一(大阪大学)
宇宙空間と「拡張した心」—宇宙というフロンティアにおける認知人類学の可能性
- PCa4 磯部洋明(京都大学)
人類は宇宙をかき乱すのか—宇宙分野から人類学への期待
- コメンテータ:内堀基光(放送大学)・岡田浩樹(神戸大学)
-

- 12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演(501教室)
- 15:00-15:25 C15 久志本裕子(日本学術振興会(上智大学))
都市高学歴層の民衆イスラーム—マレーシアにおける「新しいマウリド」の事例から
- 15:30-15:55 C16 荒木亮(首都大学東京大学院)
イスラーム的知識の主体的獲得—日本に住むインドネシア人ムスリムを事例に
- 16:00-16:25 C17 木村葉子(名古屋外国語大学・現代国際学部)
イギリス都市の祝祭の人類学—アフロ・カリブ系の歴史・社会・文化
- 16:30-16:55 C18 宇田川彩(東京大学)
テキストと啓示のあいだで学ぶ—ブエノスアイレスにおけるユダヤ教テキストの民族誌に向けて

D会場 (527 教室) 第二日目 6 月 9 日 (日)

- 9:00- 9:25 D08 山口裕子 (一橋大学)
国家英雄のジェネオロジ—インドネシア、東南スラウェシの事例
- 9:30- 9:55 D09 中村昇平 (京都大学文学研究科社会学専修)
国家の機能を補完するエスニシティ原理—インドネシア、ジャカルタにおける
ブタウィ・エスニシティの大衆組織から
- 10:00-10:25 D10 中野麻衣子 (東洋英和女学院大学)
不可視の暴力と「バリ文化」—インドネシア・バリにおけるモダニズムをめぐる
言説の一面
- 10:30-10:55 D11 吉田ゆか子 (国立民族学博物館)
仮面の「親・子」—バリ島天女の舞の仮面のレプリカをめぐる
- 11:00-11:25 D12 青木恵理子 (龍谷大学社会学部)
祖先・神はコココーラを乞う—信仰現象の多様性と遍在性
- 11:30-11:55 D13 阿良田麻里子 (東京工業大学)
インドネシアにおける食のハラール性—ムスリム消費者の意識と戦略
-
- 12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501 教室)
- 15:00-15:25 D14 王慧琴 (慶應義塾大学)
遼東半島における観光振興の動向について—旅順周辺の観光開発の事例から
- 15:30-15:55 D15 稲澤努 (東北大学東北アジア研究センター)
現代中国における地方文化の資源化と使用—広東省汕尾における地方政府主
催民俗イベントを事例に
- 16:00-16:25 D16 横田浩一 (首都大学東京人文科学研究科)
中国華南地域におけるエスニック・ラベルの歴史的変容—広東省潮州市の村落
の事例から
- 16:30-16:55 D17 清水拓野 (神戸女学院大学)
中国伝統演劇の教授・学習過程の教育人類学的研究—秦腔演劇学校の“口伝心
授” 実践に注目して

E会場 (526 教室) 第二日目 6 月 9 日 (日)

- 9:00- 9:25 E03 照山絢子 (ミシガン大学)
「発達障害」とその経験の確かさをめぐって
- 9:30- 9:55 E04 モハーチ・ゲルゲイ (慶應義塾大学)
治験一葉を通して感覚を比べる
- 10:00-10:25 E05 高橋絵里香 (日本学術振興会)
家族と分業—フィンランドの親族介護支援制度にみる個と範疇
- 10:30-10:55 E06 島藺洋介 (金沢大学医薬保健研究域医学系環境生態医学・公衆衛生学研究室)
(病いの語り) の中の身体—フィリピンの末期腎不全患者による苦痛の語りに関する一考察
- 11:00-11:25 E07 松岡秀明 (東京慈恵会医科大学)
身体に抗って一死をまぢかに控えた人間はなぜリハビリテーションを受けるのか
- 11:30-11:55 E08 浜田明範 (一橋大学社会学研究科)
ドキュメントを通じた統治の連鎖—ガーナ南部のヘルスセンターを事例として
-
- 12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501 教室)
- 15:00-15:25 E09 吉田尚史 (早稲田大学)
精神疾患概念の翻訳—カンボジア王国プノンペン市にある精神科外来での診断過程から
- 15:30-15:55 E10 淵上恭子 (日本文化人類学会会員)
韓国の卵子提供とエッグ・シェアリング—「生命倫理法」にみる卵子売買防止策の医療人類学的考察
- 16:00-16:25 E11 澤野美智子 (神戸大学)
ケアの再構成を通じた韓国の家族再考—既婚女性の乳がん患者の事例
- 16:30-16:55 E12 西真如 (京都大学)
「病を治すは生活を直す」—生活障害を抱えた釜ヶ崎の結核患者に対する服薬支援の取り組み

F 会場 (522 教室) 第二日目 6 月 9 日 (日)

- 9:00-11:55 分科会 PFb 代表者: 木村周平 (筑波大学)
「生」の復興に向けて—3.11 と人類学 (3)
- PFb0 趣旨説明
- PFb1 佐治靖 (福島県立博物館)
原発事故による放射能汚染と在来知の脆さ —阿武隈山地のニホンミツバチの
伝統養蜂の存在意義を通して
- PFb2 林勲男 (国立民族学博物館)
被災民俗芸能の「復活」 —三陸沿岸の鹿踊り支援を通じて
- PFb3 李仁子 (東北大学)
震災被災地コミュニティのゆくえ —旧雄勝町浜の事例から
- PFb4 内尾太一 (東京大学大学院総合文化研究科)
大規模災害の教訓伝承に関する公共人類学的研究 —東日本大震災の災害民話
は創造可能か?
- PFb5 丹羽朋子 (東京大学大学院総合文化研究科)
津波被災者が手探りする、新たな〈共有〉のかたち—散在する遠さと潜在する
近さの間で
- コメンテータ: 金谷美和 (国立民族学博物館)
-

- 12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501 教室)
- 15:00-15:25 F09 原田静香 (東京大学大学院 人文社会系研究科 韓国朝鮮文化研究専攻)
過剰な〈かわいさ〉で戯れる—韓国人青年のエギョ行為とパフォーマンス
- 15:30-15:55 F10 渡邊麻理亜 (名古屋大学大学院文学研究科)
朝鮮王朝の加髻と頭髪の流通—加髻流行とその背景
- 16:00-16:25 F11 伊藤亜人 (早稲田大学アジア研究機構)
北朝鮮社会の人類学的研究—脱北者情報の分析を通して
- 16:30-16:55 F12 板垣竜太 (同志社大学)
北朝鮮の民俗学における現代性の位相

G会場 (532 教室) 第二日目 6 月 9 日 (日)

- 9:00-11:55 分科会 PGb 代表者: 沼崎一郎 (東北大学)
生活と人類学の間— “日本” で “人類学者” として “暮す” ということ
- PGb0 趣旨説明
- PGb1 陳天璽 (国立民族学博物館)
研究と生活の関係 — 自分の暮らし、研究、社会实践を人類学する
- PGb2 ポール・ハンセン (筑波大学)
ホームワークをする — コスモポリタン人類学のアイロニー
- PGb3 沼崎一郎 (東北大学)
帰国児童生活とアメリカ人類学の間 — “生まれ育った仙台” で “アメリカ帰りの人類学者” として “暮す” ということ
- PGb4 ドナルド・ウッド (秋田大学)
日本の「田舎」で人類学的に暮らすこと — 吉田三郎と私の「ボアズの実験」
- PGb5 桑山敬己 (北海道大学)
教室における文化的邂逅 — 自/異文化 を 異/自国 で語ること
コメンテータ: 中牧弘允 (吹田市立博物館)
-

12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501 教室)

- 15:00-17:25 分科会 PGc 代表者: 飯嶋秀治 (九州大学大学院)
応答の人類学— その初志と課題
- PGc0 趣旨説明
- PGc1 伊藤泰信 (北陸先端科学技術大学院大学)
「呼びかけ」と「応答」— 他領域との関係から考える
- PGc2 秋保さやか (筑波大学)
利用される「他者性」と「呼応」をめぐる相互行為— カンボジア南部稲作農村におけるフィールドワークの事例から
- PGc3 亀井伸孝 (愛知県立大学)
フィールドワークの失敗学— 調査技法と応答の共有に向けて
- PGc4 小國和子 (日本福祉大学)
手段として/目的としてのフィールドワークにおける応答性— 「応答の人類学」コメントに代えて
コメンテータ: 木村周平 (筑波大学)

H会場 (533 教室) 第二日目 6 月 9 日 (日)

- 9:00- 9:25 H09 鈴木晋介 (関西学院大学)
スリランカにおける「ひとの種類」の実践的編成—ジャーティヤ概念を生活の場に差し戻すこと
- 9:30- 9:55 H10 脇田道子 (慶應義塾大学大学院社会学研究科)
辺境のツーリズム—インド、ブータン国境地帯の事例から
- 10:00-10:25 H11 國弘暁子 (群馬県立女子大学)
排他と歓待の分水嶺—ヒンドゥー女神寺院における贈与に関する調査研究
- 10:30-10:55 H12 内山田康 (筑波大学)
哲学と人類学のシンメトリックな関係に向けて—南インドの村の女神の高級化とホラーなもの力を事例として
- 11:00-11:25 H13 田口陽子 (一橋大学大学院社会学研究科)
代表性をめぐる試み—ムンバイにおける市民社会団体の選挙活動から
- 11:30-11:55 H14 松川恭子 (奈良大学)
インド、ゴア社会の演劇ティアトルにみる地域的想像力の展開
-
- 12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501 教室)
- 15:00-15:25 H15 左地 (野呂) 亮子 (筑波大学)
フランスのマヌーシュ共同体における死者の位置づけと沈黙の敬意
- 15:30-15:55 H16 横田吉昭 (東京大学大学院総合文化研究科博士課程超域文化科学専攻 (表象文化論))
第二次世界大戦下の漫画の中に描かれた日本人像に見る「国民」意識—プロパガンダ表現の中に隠された「国民」を演じる「庶民」像
- 16:00-16:25 H17 塩路有子 (阪南大学)
コミュニティと観光に関する一考察—英国カントリーサイドにおける観光案内所をめぐる動きから
- 16:30-16:55 H18 田中英資 (福岡女学院大学)
「石ころ」から「守るべき遺産」へ—トルコ地中海地方パターラにおける遺跡保存と観光開発

I 会場 (513 教室) 第二日目 6 月 9 日 (日)

- 9:30-11:55 分科会 PIc 代表者: 関根久雄 (筑波大学)
感情と開発—人類学における応用的実践の新展開
- PIc0 趣旨説明
- PIc1 鷹木恵子 (桜美林大学)
チュニジア政府開発政策と革命後の農民暴動—ローカル・コンテクストからの
開発と感情の一考察
- PIc2 鈴木紀 (国立民族学博物館)
農村開発におけるオーナーシップと嫉妬—メキシコの事例研究から
- PIc3 内藤順子 (立教大学)
スラム観光の実施をめぐる感情的葛藤—チリ・サンチャゴ市の実践から
- PIc4 関根久雄 (筑波大学)
怒りを「管理」する—ソロモン諸島における開発実践と感情経験
- コメンテータ: 玉置泰明 (静岡県立大学)・清水展 (京都大学)
-

- 12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501 教室)
- 15:00-15:25 I04 溝口大助 (九州大学)
埋葬儀礼におけるしかるべき発話—マリ共和国南部セヌフォ社会の埋葬儀礼
を事例を手がかりに
- 15:30-15:55 I05 今中亮介 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
「こども／おとな」であることをするところ—マリリンケの子どもの集会におけ
る会話場面の分析から
- 16:00-16:25 I06 松平勇二 (名古屋大学文学研究科)
葬送儀礼「クロワグワ」に見るショナ族の祖霊観念
- 16:30-16:55 I07 馬場淳 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
ジュリになるということ—ケニア・メル社会における長老結社への加入に関す
る一考察

映像作品上映

J 会場 (501 教室) 第二日目 6 月 9 日 (日)

- 9:30-10:30 森田良成 (東洋大学アジア文化研究所)
アナ・ボトルー西ティモールの町と村で生きる
- 10:40-11:40 小林宏至 (日本学術振興会)
土楼の客一環極楼スケッチ
- 11:50-12:25 伊藤敦規 (国立民族学博物館)
アメリカ先住民 ホピの銀細工づくりー銀板に重ね合わせる伝統
-
- 12:30-14:50 総会・学会賞受賞者講演 (501 教室)
- 15:00-15:45 Itsushi KAWASE (National Museum of Ethnology, Japan)
ーWhen Spirits Ride Their Horses
- 15:55-16:55 南出和余 (桃山学院大学)
グローバル・ポリバールーバングラデシュ青年海外労働者とその家族